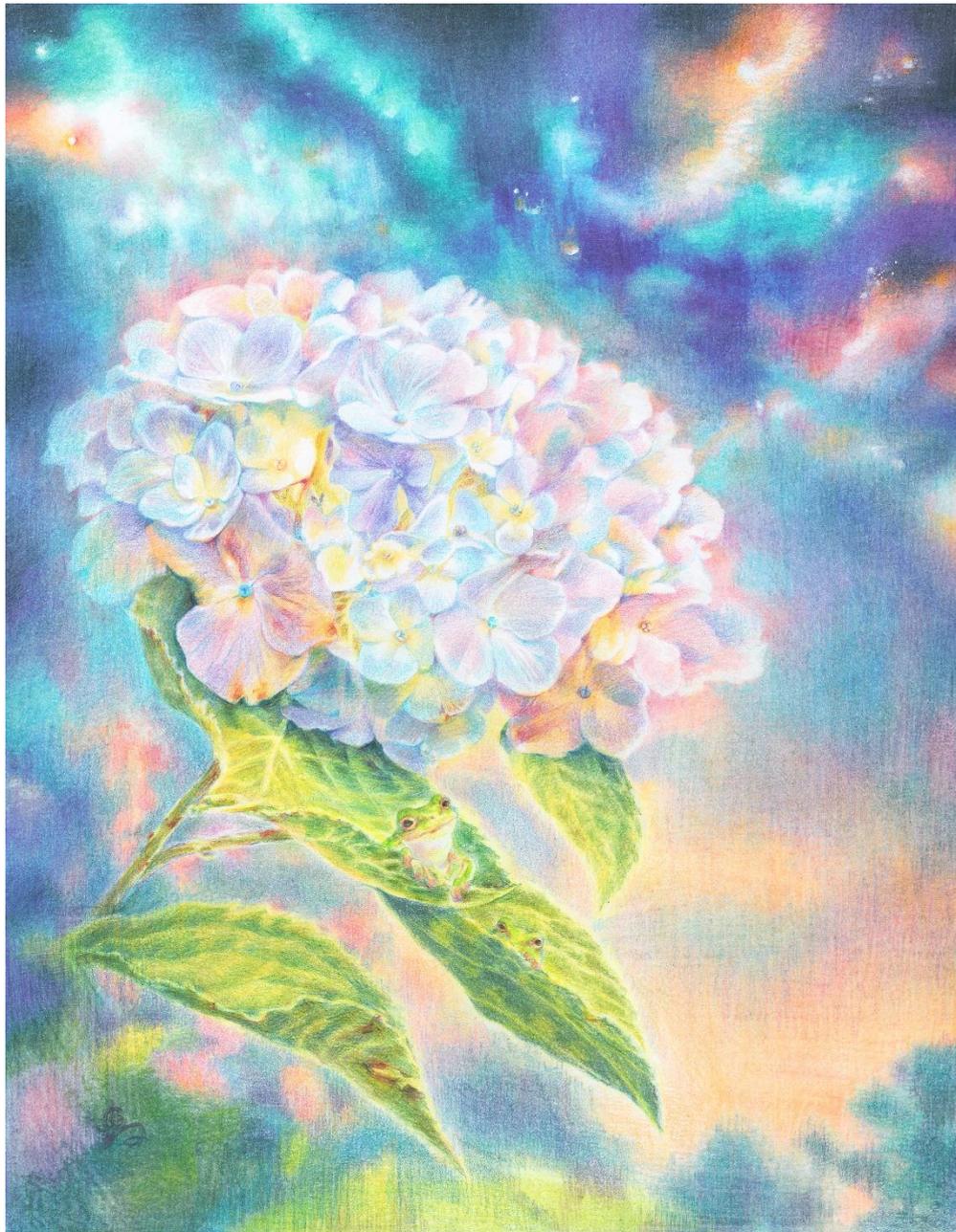


2024年6月期 ゴルフ会員権レポート

～ゴルフ場業界を取り巻く環境について～



Paralym Art 「星見宿」 庫美原 作

株式会社アパックス・インターナショナル
東京都台東区上野 5-19-4 美鈴ビル 8F
TEL: 03-5812-3053/FAX:03-5812-3054

表紙イラスト紹介

－星見宿－（庫美原 作）

紫陽花は土壌の pH 値や老化等の理由により色が変化し、花びらの色によって花言葉も変わります。ネガティブな花言葉もありますが、色によってはポジティブな意味でお祝いの花としても贈られることがあります。同じ花(生物)でも、それぞれ個性や種類があり、環境や経験によって変化していく様子がどこか人間らしく私たちに似ている花だと感じ、とても惹かれました。

こちらの作品を見ていると梅雨を思わせるブルーの色味が涼しさを感じさせ、時期に夏が来るという日本の四季、季節の移ろいも感じられる作品であると思います。

庫美原さんの作品は、画材や画風に拘りなく様々なものを使用し、その時の感情に合わせたものを選択しているそうです。作品によって見え方や感じ方が違い、人間の心を表している様な作品ばかりです。様々な企業から作品採用されているアーティストさんでもあるので、ぜひ他の作品もご覧ください。

(株)アペックス・インターナショナルは、
SDGs の取り組みの一環として、パラリンアートを応援します。



Paralym Art®
障がい者アートを応援しています

障がい者がアートで夢を叶える世界を作る

パラリンアートは

障がい者アーティストとひとつのチームになり、
社会保障費に依存せず、民間企業・個人の継続協力で
障がい者支援を継続できる社会貢献型事業を行います。

－ 活動実績 －

- ・パートナー企業 300 社以上(年間)へパラリンアートの提供とSDGs推進実施
- ・2017 年以降アーティスト報酬 1,000 万円以上(年間)支払い
- ・障がい者の成功体験創出、社会参加を 300 件以上(年間)創出

一般社団法人 障がい者自立推進機構
<https://paralymart.or.jp/association/>



ゴルフ会員権業界を取り巻く環境（2024年6月）

～ 大特集ゴルフ場フォーカス 「西那須野カントリー倶楽部」編 ～

今回のレポートは、栃木県的那須塩原市にある「西那須野カントリー倶楽部」（以下、西那須野 CC）をフォーカスしてお届け致します。西那須野 CC は、2021 年より男子プロの大会「**JAPAN PLAYERS CHAMPIONSHIP by サトウ食品**」の舞台です。この大会が他のトーナメントと大きく異なるのは、選手たちが主導で協賛企業を探し、大会を作り上げているという点です。なぜ男子プロは、西那須野 CC を舞台として選んだのでしょうか、そして選ばれたゴルフ場には、どのような歴史や秘密が隠されているのでしょうか。



<西那須野 CC クラブハウス>



<2023年度 トーナメント>

2024年6月のレポートテーマは、「大特集ゴルフ場フォーカス『西那須野カントリー倶楽部』編」です。

目次

- 【1】 西那須野 CC の歴史
- 【2】 西那須野 CC トーナメント開催からの変化
- 【3】 西那須野 CC 今後のビジョン
- 【4】 後記

【1】西那須野 CC の歴史

西那須野 CC の経営母体は、東証スタンダード上場「ハウライ株式会社」（資本金 43 億円）です。ハウライ株式会社は、保険事業本部、不動産事業本部、千本松牧場事業本部、ゴルフ事業本部の4事業部で構成されています。西那須野 CC は、那須塩原市の千本松地区にあり、千本松地区内に隣接する千本松牧場は、東京の「千代田区」とほぼ同じ面積（東京ドーム約 178 個分）という広大な土地を有しています。

千本松牧場の歴史は、明治時代迄さかのぼります。明治政府は、富国増強・産業振興をスローガンに掲げ、その一環で「農地開拓」「農地振興」を推奨しておりました。その流れで、現在の千本松牧場のあるエリアが注目され、開墾の為に「那須開墾社」が設立されました。まずは、開拓に必要な不可欠な「水」を確保するため、水をひく疎水事業が行われ、明治 18 年に「那須疎水」が開通しました。

この疎水事業は、明治初期の殖産興業を背景にした国家プロジェクトであり、「那須疎水」は日本三大疎水（福島：安積疎水、京都：琵琶湖疎水）の一つに数えられます。

開拓を続けていた「那須開墾社」ですが、開拓後の維持、運営に苦勞していた中、内閣総理大臣を2度、大蔵大臣を7度歴任した明治の元勳、松方正義公がこの土地を購入し、農場をスタートさせました。



<松方 正義公>



<アカマツ>

松方正義公は、この地域に天然のアカマツが群生していたことから、この地を「千本松」と命名し、それが現在の地名にもなっています。この土地は、昭和3年に松方巖氏（松方正義公の長男、十五銀行の元頭取）により十五銀行に提供され、それを現在のホウライ株式会社にあたる会社（蓬萊殖産株式会社）が買取りました。そこで、農場経営を引き継ぐことになったのが、現在の千本松牧場の始まりです。（その後、十五銀行は帝国銀行に吸収合併され、帝国銀行の一部は三井銀行に分割されました。三井銀行は、数次の合併を経て現在は三井住友銀行となっています。）

時は流れ、ホウライ株式会社は多角的経営を展開していきました。その一環としてスタートしたのが「ゴルフ事業」です。まずは平成2年に「ホウライカントリー倶楽部」（以下ホウライCC）が営業をスタートし、平成5年に「西那須野CC」がオープンしました。尚、ホウライ株式会社は、平成3年に株式店頭公開を果たし、平成7年にはジャスダック証券取引所に上場しています。



<廣野 GC>



<ロバート・ベン・ホギー氏>

この両コースに共通するのは、欧米風の超一流コースを見本とした点です。国内だと川奈 GC、廣野 GC に匹敵するコースを造る事が目標でした。川奈 GC、廣野 GC は英国人 C.H.アリソン設計のゴルフ場です。そこでアリソン亡き後の欧米での有名なコース設計家として、ロバート・ボン・ヘギー氏に白羽の矢が立ちました（他に、河口湖 CC、有馬ロイヤル GC 設計）。ヘギー氏は、「光と影の魔術師」「バンカーと池の魔術師」とも言われ、那須連山をバックに、見事なコースを完成させました。

ホウライ CC、西那須野 CC の大きな特徴の一つとして、国内では稀有なオールベント芝（西洋芝）という点が挙げられます。ベント芝は寒さに強いが暑さに弱いので、関東圏ではグリーンのみ利用されるケースがほとんどです。関東近隣では非常に貴重なゴルフ場と云えるでしょう。



<ホウライ CC>



<西那須野 CC>

【2】 西那須野 CC トーナメント開催からの変化

兄弟コースである「ホウライ CC」では、2000 年から 2003 年迄、「(現) BMW 日本ゴルフツアー選手権 森ビルカップ」が開催されておりました。2021 年、18 年振りに今度は西那須野 CC にトーナメントが帰ってきました。そのきっかけはどのような経緯だったのでしょうか。

まずは、ホウライ株式会社ゴルフ事業本部 矢ノ目営業推進部長、西那須野 CC 藤井支配人、そして大瀧グリーンキーパーのお三方に、トーナメント開催迄の流れ、また苦労話を伺いました。



<矢ノ目部長>



<藤井支配人>



<大瀧グリーンキーパー>

～プロから直接のプレゼン～

Q トーナメント開催のきっかけを教えてください。

A 当時ジャパンゴルフツアー機構で、男子プロが新しいトーナメントを企画しているという事でした。近年、男子プロは女子プロと比較して人気の差が大きく開いている。その影響から男子トーナメントの試合数は年々減少しており、未来に対して危機感を抱いている選手も少なくない。男子プロもこのまま受け身で手をこまねているわけにはいかない。そこで選手会が中心となり、スポンサー主導ではない、大会をカタチにしようとしているビジョンを、池田勇太プロから直接プレゼンして頂きました。

新しい大会は、男子プロが内容の企画から、特別協賛企業の誘致、コースセレクトも自分たちで行い、新しい男子プロを見せたいと強くアピール頂きました。また当時の協賛予定企業から提示された、「都心から150 km圏内で、日帰り出来る会場」という条件にも合致していたので、この新しい大会の会場としてハウライ CC 若しくは西那須野 CC を利用したいという嬉しいオファーを頂いたのです。

【矢ノ目部長談】

Q 新しいカタチの大会とは、具体的に男子プロのどのような意向が反映されているのでしょうか？

A 普通のトーナメントはスポンサーありきです。スポンサーの意向が色濃く反映されます。誤解を恐れず云うと、プロは大会期間中、会場に来て試合をするだけです。また、TV 放映でも、中には短く編集され最終組しか放映されないという国内の大会をご覧になった経験がおありではないでしょうか。

「JAPAN PLAYERSCHAMPIONSHIP」は、スポンサー主導でなく、男子プロ主導で大会内容が企画されています。海外では、優勝争いに絡んでいないプロでも、TVにまんべんなく取り上げられ、プロの尊厳が保たれています。アマチュアゴルファーの方々に、もっと男子プロのプレーの面白さを知って頂きたいという思いもあり、最初から地上波放映ではなく、ゴルフ専門チャンネルでの放映で企画されました（現在は ABEMA で放映）。

企画検討時から男子プロもミーティングに参加し、多くのアドバイスや意見を発言されていました。特に石川遼プロは、海外の大会の経験も豊富なので、海外でのゴルフトーナメントに関しての意見を多く発言されていました。石川プロは大会前に、コースを下見され、安全面を考慮しながら観客のロープ位置を出来るだけプロに近いところまで前進させました。観客の方々に、プロのプレーを目の前で体感してもらいたい、という強い想いがひしひしと伝わってきました。

また宮里優作プロからは、ヨーロッパの大会では、大会中でもアマチュアとの交流があるとの意見が出ました。そこで、このトーナメントでは大会3日目に、地元高校のゴルフ部の学生と、ニアピン大会を試合中に行い、プロと一緒にプレー出来るというイベントを開催しています。通常のツアーだとあり得ないですよ（笑）。それだけ、プロの意見が色濃く反映される大会なので、今後も更に進化していくのではと、こちらワクワクしています。

【藤井支配人談】

Q 何故「西那須野 CC」での開催となったのですか？

A 最初は「ホウライ CC」若しくは「西那須野 CC」のどちらかでというお話でした。ゴルフ場関係者全スタッフに報告し、会議を重ねました。最終的に、大半のスタッフから是非ともトーナメント開催にチャレンジしたい、そして男子プロの想いに答えたいという同意を得ました。

コースが西那須野 CC になったのは、元々ホウライ CC は、トーナメント開催の実績はあるので、兄弟コースである西那須野 CC もトーナメント開催コースとして、ホウライ CC と肩を並べたかった事。そして西那須野 CC はホウライ CC 後に造成されたコースなので、ホウライ CC の弱点(距離等)も解決していました。現在のプロの大会に充分耐えることが出来ると判断し、西那須野 CC での開催としました。過去、ホウライ CC でのトーナメント開催時、ジャンボ尾崎選手から、「ホウライ CC は距離が短いのでドライバーを気持ちよく振れるホールが少ない」と言われた事があるのも参考としました。



【矢ノ目部長談】

Q トーナメント開催が確定した際、ゴルフ場スタッフの方々の反応は如何でしたか？

A とても喜んでおりました。これまでは通常のゴルフ場の営業のみでしたが、トーナメントというプロの競技が行われる事で、今までよりも更に「スケジュールリング」意識が皆に生まれたのではと思います。特に、ゴルフ場にとって最重要項目である、コースメンテナンスに関しては、大会前後迄に、主催側からのコース要望に答えられるよう逆算し、年間スケジュールを管理する事が、これまで以上に重要意識として芽生えたと感じています。

【藤井支配人談】

Q 久しぶりのトーナメント開催で苦労した点はどのようなところですか。

A 通常のトーナメントは約1年前からお話を頂き、キックオフミーティングとなるのが通例です。しかし、2020年度の第1回目の大会の際は、お話を頂いたのが約半年前でした。通常よりも半年も短い期間ですべての調整や打合せをトーナメントディレクターや選手会と行い、それを現場に落とし込むのに、てんやわんやでした。

また、「コロナ禍」というこれまでに体験したことのない状況でも重なり、手探り状態で開催したという感想です。初年度が「無観客」ということも強く思い出として残っています。

そんな状況下でしたので、初年度の大会は、プロからのニーズにも応えきれない部分も多かったと思います。今回（2024年度）は4回目の開催となります。当初よりトーナメントディレクターから要望があった、「グリーン」に関しては、昨年度の大会より、プロの要望に限りなく近いセッティングが出来るようになりました。そのおかげで男子プロからもお褒めの言葉を多く頂きました。今年度の大会でも注目してもらいたいポイントです。

【矢ノ目部長談】

Q トーナメント開催前と開催後で大きく変化した点はどのような事でしょう？

A 大会開催前に、プロ自身が開催者の目線で、コースをプレー及び視察しているので、コースセッティングに関する細かい指示やアドバイスを、直接いただく事が出来ます。

プロから、戦略面からの各ホールの見どころや、「おそらくこのホールで勝負をかけるプロも出てくるだろう」等、アマチュアでは思いつかない視点でのアドバイスを沢山頂きました。大会の盛り上がり意識したギャラリーの導線や観覧位置の設営、そしてプロのボール飛距離から考慮した、景観の修正など、通常の運営だけでは得られない考え方があるのだという事に気づかされました。結果、以前と比較して、スタッフ全員のコースの考え方が多面的になったと実感しています。

また既存メンバー様からも、トーナメントを開催したことにより、ホームコースがトーナメントコースになったと喜んで頂けております。

【藤井支配人談】



～プロも納得するグリーン周り～

Q 通常時とトーナメント時では、ラフの芝の長さの違い、またグリーンスピードの速さ等、セッティングはどの位異なるのでしょうか？

A 通常時のラフは、約50ミリなのに対し、トーナメント時は80ミリのセッティングです。フェアウェー（FW）をとらえた選手はバーディを狙えるが、ラフに入ると、パーセーブが出来るかどうかのぎりぎりのポイントを狙い、男子プロの技術が映えるような長さに調整しています。

昨年度と異なる点は、今年はFWにファーストカット（ラフとFWの境目の中間的なラフ部分）を設けました。これは西那須野CCのFWが広い事から導入されました。

過去3回の大会と比べても、今大会では男子プロに、更に精度の高いボール運びが要求されるでしょう。

また、西那須野 CC はバンカー面積が 21,320 m²あります。トーナメントの規定で、ガードバンカー（グリーン周りのバンカー）には、リップ（バンカーの淵にある 10cm くらいの壁）を設けなければなりません。グリーン周りでの正確なバンカーショットが要求されます。勿論フェアウェイバンカーにも芝面とバンカーのエッジ（境界線）をしっかりと出さなければなりません。今まで以上にバンカーのメンテナンスも力を入れています。

そしてグリーンに関しては、スピードが、通常時 9 フィート、トーナメント時は 11 フィート強、コンパクション（硬さ）は通常 22、トーナメント時は 25 です。プロの大会では、グリーン周りからパットの部分で劇的なドラマが生まれます。よって最も繊細に管理している部分です。プロからも、グリーンスピードは最も要求される部分なので、今回の大会でも一番注目して頂きたいところでもあります。

是非、今後來場される方にも、西那須野 CC のグリーン周りの面白さを体験して頂きたいです。

【大瀧グリーンキーパー談】

Q 西那須野 CC のココに注目して欲しいというポイントはありますか？

A 西那須野 CC は、通常のゴルフ場の 2 倍の面積を有しており、隣が見えないホールがなんと 13 ホールもあります。関東近隣（都心から 100km）では、西那須野 CC のような広大なゴルフ場は皆無でしょう。また FW もオールベント芝である事も特徴の一つです。

以前、初めて来場いただいたお客様の感想で「TV ゲームの中に出てくるようなコース景観」とよく云われました。他のゴルフ場にはない広大な景観、そしてオールベントの青々とした芝、その方にはまさに非日常が、目の前に現れたような感覚だったのだらうと思います。

千本松の地が誇る「美」の空間を、多くのゴルファーの方に感じて頂き、そして、男子プロのスーパープレーと比較しながら、トーナメントコースでのプレーを楽しんで頂ければ幸いです。

【大瀧グリーンキーパー談】

男子プロが企画し、**新しい事にチャレンジ**しているこのトーナメントに対するゴルフ場スタッフのやる気、そしてゴルフ場コンディションの変化等、大変興味深いお話を伺う事が出来ました。

また男子プロゴルファーになると、コースレイアウトを見れば、大体の戦略が分かるそうです。石川プロが、コース内のロープ位置を修正しているという事でしたが、何故かという、「プロなら戦略上、その場所にボールを飛ばす事がないので、もっと手前にローピングしても安全上問題ない」からという理由からだ。プロの意見や視点を取り入れてゆけば、より「現地で見ると」魅力が増える事でしょう。

【3】 西那須野 CC 今後のビジョン

最後に、ゴルフ事業本部の金田本部長に、今後のゴルフ場の展望をお伺いしました。



<金田本部長>

約 100 万坪の広大な敷地内に造成された西那須野 CC、及びホウライ CC は、ゴルファーに那須連山の雄大な景観を見ながら、非日常のゴルフを満喫頂くことが出来ます。コースレイアウトも、非常にエキサイティングで、国内では稀有のゴルフコースであると自負しております。

現在は、西那須野 CC がトーナメントで使用されておりますが、ホウライ CC も西那須野 CC に全く引けを取らないゴルフ場です。

両コースがトーナメントコースなので、アスリート志向のゴルファーには勿論ご満足いただけますが、ゴルフ初心者の方にもフロントティーをご利用頂ければ、十二分に楽しんで頂けるレイアウトに設計されております。

将来的には、ホウライ CC 及び西那須野 CC が、全てのゴルファーの憧れのコースとなり、来場した方全員に、心躍る感情が沸き立ち、お帰りの際には、またチャレンジしたい、来場したいと思って頂けるゴルフ場にすることが、当面のビジョンです。

これからもスタッフ一同、ご来場いただいたゴルファーの皆様に喜んで頂けるよう邁進してまいります。今後のホウライ CC ・西那須野 CC に是非ご期待下さい。

通常だと、トーナメントコースは「難しい」からプロの大会で利用されるので、ゴルフが相当好きな方でないと、プレーのハードルが高いイメージです。が、金田本部長からは、アスリート系のゴルファーだけでなく、全てのレベルのゴルファーに心からプレーを「楽しんでいただく場」を提供したいという思いが伝わって参りました。

2024 年度の大会も終了し、落ち着く暇なく、次の大会の準備がスタートしている事と思われまます。トーナメントをきっかけに、進化し続ける西那須野 CC。来年の進化のポイントもまた楽しみの一つです。



【4】 後記

約 20 年の時を経てトーナメントが開催されたゴルフ場は、過去の反省を鑑みて、新しい事にチャレンジし続けていました。

またプロからのアドバイスを生かし、自らの「強み」に更に磨きをかけ続けようという姿勢を感じました。

～人が何かを成し遂げるのは、強みによってのみである。

弱みはいくら強化しても平凡になることさえ疑わしい。

強みに集中し、卓越した成果をあげよ～

ピータードラッカー氏

「(都心から) 遠いゴルフ場は、なかなか利用し難い」という声は少なくありません。

しかしながら、そのゴルフ場でしか味わえない体験、経験があり、それらが人を「感動」させることが出来るレベルのものであれば、「距離」は超越出来るのではないのでしょうか。

日本国内には約 2,000 以上のゴルフ場があります。その中で「**唯一無二**」の経験・体験が出来るゴルフ場であれば、ゴルファーであれば「一度は訪れてみたい」と思うでしょう。

「唯一無二」に近づくためにも、**己の強みを最大限に生かす**という事が重要になります。それがコースレイアウトを最大限に生かすためのコースメンテナンス技術なのか、スタッフのサービスなのか、競技会等のメンバーを満足させる企画なのか。まずは己を知り、どこを徹底的に成長させていくかを決定し、それに向かって突き進む事が、今後のゴルフ場の差別化にも繋がります。

～他者を知ることは知恵であり、自分自身を知ることは悟りである～

老子

コロナ禍の恩恵からのゴルフブームはひと段落しています。ゴルフをスタートさせた、また再開した人に、ゴルフを続けて頂く事が、ゴルフ場が生き残る為の最大の課題となるでしょう。まずは己を知り、ゴルファーに求められていることは何なのか、そこを徹底的に深堀し強みを今以上に磨き上げ、研ぎ澄ますことで、他コースとの圧倒的な「差別化」が生まれるのではないのでしょうか。

(AIゴルフ総研 五十嵐雅弘)